

## 「テクニックを通じたダンスの継承——ホセ・リモンを例に」

早稲田大学大学院 文学研究科 演劇映像学コース

小泉実樹

1980年代以降、ダンスを開拓してきた先駆者たちの相次ぐ死を受け、彼らの遺産及びダンスの保存・継承という問題に注目が集まるようになった。近年では上演を取り巻く資料のデジタル化など、より一層ダンスの保存に注力されている。また同時に、それら資料の公開も図られ、過去のダンスの遺産を活用した創造的な取り組みも行われるようになってきている。

しかし、身体を介した継承という視点からダンス・テクニックについての議論は未だ盛んとはいえ、未着手の領域が広い。本研究で取り上げるリモン・テクニックは、バレエやグレアム・テクニックと並び、西洋のダンスの教育機関・団体において必修科目として取り入れられるほど主要なテクニックであるにもかかわらず、特に日本においてその研究は十分とは言えない。動きの型や教授法を明確に固定化していないリモン・テクニックを事例に研究を行うことで、テクニックの教授・習得の過程を経て継承されていくものを明らかにし、身体を介したダンスの継承として新たな知見を提供することを試みたい。

先行研究から、リモン・テクニックはリモンの師であるドリス・ハンフリーによるフォーラム&リカバリーの原則を引き継いでいることが明らかになった。リモンは身体各部位を分解し、それぞれの特性をもとに、呼吸のリズムと連動させ各部位を繋げることで動きのフレーズが生まれるとした。リモンはハンフリーの重力の法則を基礎に、具体的な動きを肉付けしていくことで新たなテクニックを生み出したのである。

また、リモン・テクニックはリモンの意向により、彼の死後まで明文化されなかった。これは、教授者それぞれが独自の要素を取り入れながら継承していくことで、テクニックの育成と発展が望まれていたためである。

先行研究では、リモン・テクニックが継承され続ける要因を、この厳密性の低さによる応用のしやすさに起因すると述べられているが、本研究では、リモン・テクニックの重力と呼吸を利用した上で目指される自然な身体の可能性を広げる性質にも、現代までその地位を保ち続けてきた事由があると結論づけた。リモン・テクニックが持つ、身体部位を分解し再結合することで自身の身体をときほぐす作用が、汎用性の高い身体を形成し、現代において必要とされるダンスジャンルの垣根を越えた身体の育成に有効に働くために、廃れることなく継承され続けているのだと考えられるだろう。